

令和 6 年度(2024)

学校・家庭・地域が一体となった 教育力向上研修

～内容のまとめ～



実施日	テーマ	講師
5月21日(火)	いじめ・不登校	青森県スクールカウンセラー 岩田彩子／協力保護者／指導主事 猪股典生
5月30日(木)	PTAの有効活用	スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重幸恵
6月10日(月)	成長と食育	大野小学校 校長 須藤 隆文／青森中央短期大学 准教授 木村亜希子
6月24日(月)	部活動の地域移行	長岡市教育委員会学校教育課 課長 石川智雄／主任指導主事 福井正治
7月 2日(火)	学校統廃合	旧栄山小・泉川小元 PTA 会長 木立匡英／青森公立大学 准教授 西村吉弘

挨拶

学校・家庭・地域が一体となった教育力を向上させていくために

青森市教育委員会 教育長 工藤 裕司

かつては、子どもたちへの教育は至る所で行われていました。家庭にはお爺ちゃん、お婆ちゃん、お兄ちゃん、お姉ちゃん、そしてお父さん、お母さんがいました。悪いことをすれば、お父さん、お母さんが叱る前に、お爺ちゃん、お婆ちゃんが、お兄ちゃん、お姉ちゃんが叱ってくれました。悲しい時も、嬉しい時も、みんなで慰めたり、褒めたり、お祝いをしたり、地域にもたくさんの方々が、教育してくれていました。

しかし、今はどうでしょうか。核家族化・少子化によりお爺ちゃん・お婆ちゃん・兄弟がいない家庭が増えました。

以前と比べ、家庭や地域で教育される機会が減っていき、子どもたち自身の問題解決能力は低くなりました。いじめの問題や不登校の問題は複雑化、長期化していき、家庭から学校に寄せられる相談は増える一方で、教員は日々対応に追われています。

昨年夏に、県が保護者や教職員を対象に「教育に関するアンケート」を行いました。保護者は最大の教育課題として「学校の対応」を挙げており、保護者の3倍相当の教職員が最大の教育課題として「保護者対応」を挙げています。

このような中、「今後の子どもたちを取り巻く教育環境をどうしていけばよいのか」という問いについて、ともに考えましようというのが、本研修講座の趣旨です。

時を同じくして、今年9月に東青管内で開催される第56回日本PTA東北ブロック研究大会東青大会においても同様の問題を提起されることを実行委員長の市PTA連合会顧問の高坂修様から伺いました。これらのことを鑑み、本研修講座のテーマについても、東北大会と同様のテーマを扱い、教職員、保護者、PTAと一緒に勉強する機会としました。

5回の講座では、たくさんの講師や協力者の方々から知見をいただき、参加者同士の意見交流を通して、青森市から発信したいことを冊子にまとめました。ぜひとも手に取り、それぞれの学校、家庭、地域で、さらに深めてほしいと期待しています。

結びになりますが、本市の学校現場では、令和4、5年の2年間、不登校児童生徒が学

校に復帰するいわゆる復帰率は70%を超えています。この数字は学校と家庭が連携した教育の大きな成果と考えています。また、今年度は児童生徒を支援するための校内教育支援センターが全ての小・中学校に設置されました。学校現場も非常に頑張っています。ぜひとも皆さんと共に学校・家庭・地域が一体となった教育力を向上させ、青森市が東北でも有数の教育都市となるよう、引き続き、夢や志をもち挑戦する児童生徒を育成するための取組へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座①

みんなで学ぶ家庭の役割

～いじめや不登校問題に対応するための
学校、家庭それぞれの役割～

2024 5.21(火)

9:00-11:00

青森市
教育研修センター
参加者 122 名

プログラム 1 講話



青森市教育委員会
指導課 指導主事

猪股 典生

本市では独自に作成した「いじめ認知にかかる指針」をもとに組織的に対応しており、1000人あたりの認知件数は133.9件（県：54.7件、全国53.3件）と先生方の認知のアンテナは非常に高いものとなっています。また、不登校児童生徒の復帰率は7割を超え（R5）、すべての小・中学校に不登校教育支援センターが設置されています。

私は“母はこうあるべき”、“子どもはこうあるべき”など「べきべき人間」でした。しかし、子どもは自分の思ったとおりにはならない。親が考えるルールを押し付けると、どんどん子どもの居場所がなくなる、ということに気付きました。その後、子どもが自分で判断できるように関わることで、少しずつ状況が変化していきました。



青森県
スクールカウンセラー

岩田 彩子

子どもにとって、援助を求めることは簡単ではありません。子どもの相談力は高くないからこそ、相談しやすい環境をつくっておくことが必要になります。

相談しないから困ってない、のではなく困っているのに助けを求めることができないという目線で、子どもの様子に目を配り、こちらから「どうしたの」「よかったら教えて」と声をかけてみるのが大切です。

不登校の娘と実際
に関わってきた

保護者



プログラム 2 ワークショップ

「学校の役割」だと思ふもの、「家庭の役割」だと思ふものを付せんに書き出し、話し合いました。教員、保護者、PTAで以下について合意形成しました。

学校の役割

- ・いじめの理解や不登校対策について理解を深める
- ・こまめに情報発信をする
- ・関係機関と連携を図る

共通する役割

- ・子どもが安心できる居場所をつくる
- ・子どもが自己決定できるやりとりを心がける
- ・情報共有により、連携して行動する
- ・あいさつなどの規範意識を育む

家庭の役割

- ・親子の会話を大切にする
- ・食事や睡眠、基本的な生活習慣を育てる
- ・子どもの状況を把握し、学校と共有する



参加者からの感想

とても有意義な研修会でした。PTAの方々とお話することができて、いろいろな考えに触れることができました。子どもに共感すること、学校と保護者が連携しながら、一緒に子どもと向き合うこと、子どもの考え、気持ちをよく聞くことが大切だと思いました。

講師の方のお話を聞いて、共感、納得し、自分のスタイルを変えずに子どもと向き合える自信ができました。親として、人として自分の子どもたちと、良いことも悪いことも目をそらさずに向き合おうという気持ちが強くなりました。青森市の取組も知ることができてよかったです。

子どもが不登校なので、今日の研修はとても興味深かったです。親として不登校を責めないこと、親が自分自身と向き合い、自分を大切にすることがとても重要だと感じました。青森市のいじめや不登校、教育が大きく変わっていくことに期待がもてる1日となりました。また参加したいです。



教員



保護者



保護者

学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座②

みんなで学ぶ PTA の役割 ～家庭・地域とともに子どもを育てるための それぞれの役割～

2024 5.30(木)

14:30-16:30

青森市
教育研修センター
参加者 116 名

プログラム 1 講話

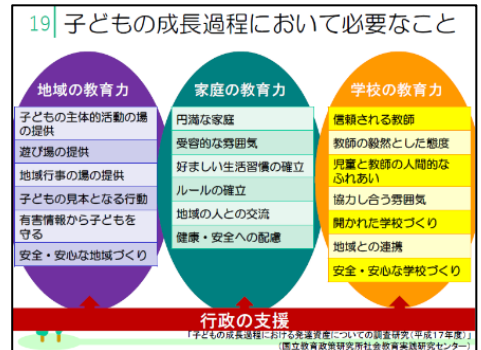


特定非営利活動法人
スクール・アドバイス・ネットワーク
理事長 生重 幸恵

PTA の存在意義は、子どもたちの幸せ・笑顔です。
教育の原点は家庭であり、家庭教育をどう充実
させるのがポイントになります。↑



家庭では、親子の会話を通じて言
語力を育む、多くの人と交流する
機会を与えることが大切になります。
今は、兄弟姉妹も少なくなり、核家
族化が進み会話も以前と比べると
少なくなっているからこそ、家庭
と家庭のつきあいや、交流が推進
されなければなりません。
そうすることで、子どもが多くの
人と関われるようになり、親の悩
みも共有でき、アドバイスし合え
る環境が生まれます。そのための
家庭同士の連携、家庭と学校の連
携を図ることが重要であり、PTA は
その推進役になることを目指しま
しょう。



プログラム 2 ワークショップ



《テーマ》 PTA が今より学校を支援できるようにするために必要なことは

- ・情報共有(対話・プリント・マチコミ等)の場を増やしていく(意見多数)
- ・学校が求める支援について「できるときに、できる人が」という体制にしてい
- ・「子どものための PTA 活動」という方向性を一緒に確認する場を設ける
- ・教育活動の意義(なぜ、なんのためにするのか)、PTA 活動の意義を互いに共有する(活動や行事のねらいを理解し、できることを模索する)
- ・やりたいこと、やれそうなこと、夢を共有する(学校と PTA、保護者で)



生重先生も各グループの話し合いの様子を見ながら、足を止めてアドバイスをされていました。

参加者からの感想



さまざまなアイデアが浮かびました。ぜひ、できることをから始めてみようと思いました。研修終了後、本日参加した本校の PTA 会長と、ぜひ今回の内容を本校の PTA の方々にも伝えましょうと共通理解しました。生重先生のこれまでの実践や考え方にとても感銘を受けた講座でした。

昨年度から PTA を義務的にではなく、できる人が、できるときに、できることを、持続可能な活動を目指した取組を目指している最中だったため、たいへんタイムリーな講話でした。プラスの連鎖を今後少しずつ広げていけそうな前向きなお話を聞けてとても良かったです。

学校の先生方、PTA の方々のお話を聞けて、良かったです。学校側の思っていることや、こういう風にやってみたなど参考になる話もありました。学校が保護者をお願いしたいこと、伝えたいことを PTA としても聞き、子どもたちのためによりよい学校になるようみんなでサポートしたいと思いました。



教員



保護者



保護者

学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座③

子どもの成長と食育

～健やかな子どもを育成するための
学校と家庭、それぞれの役割～

2024 6.10(月)

14:30-16:30

青森市
教育研修センター
参加者 114 名

プログラム 1 講話



青森市立大野小学校
校長

須藤 隆文

大野小学校では「食育チャレンジ・プログラム」の中で「家庭との連携で行う食育」として

- 1 早寝・早起き・朝ごはん！
- 2 しっかり睡眠！
- 3 時間や量を考えたおやつやジュース！
- 4 好き嫌いせずよくかんで！

というめあてを立てて進めています。また、長期休業中には、「生活チャレンジ習慣」として、家庭と連携した取組を実施しています。↓



青森中央短期大学
食物栄養学科准教授

木村 亜希子

食育を考える上で、朝食は非常に大切です。朝食をとらないと、成長期に必要な栄養素が足りなくなってしまうます。きちんと朝食をとるためには、子どもの頃から早起き等の生活習慣を確立することが大切です。

家庭でできる食育としては、
・食事の時間は楽しい時間になるようにする。
・食事作りやお手伝いを経験させ、簡単な調理ができるようにする。

・規則正しく食事できる生活リズムを作ること、などがあります。

給食時間は、「毎日繰り返し行うことができる実践活動」であり、食育の中心的な役割を担います。

ただし、留意点があります。学校給食は1年間の1/6に過ぎません。給食指導の効果を高めるためには、家庭にも発信し、連携していくことが不可欠です。

本校の食育の取組の一部を紹介すると、食に関する出前授業（各学年で実施）、全校保健委員会（全校児童・保護者を対象に実施）、田植え・稲刈り体験（5学年）本校保護者による食育教室（6学年）などがあります。

子どもたちの興味・関心を高めながら望ましい食習慣と運動習慣形成のための指導を行っています。



食育の視点（上から小学校低学年→高学年・中学生）講話資料から

①食事的重要性	②心身の健康	③食品を選択する能力	④感謝の心	⑤社会性	⑥食文化
✓ 楽しく食べる ✓ 食べ物、食事に興味・関心をもつ ✓ 3食規則正しい食事の大切さ ✓ 食環境と自分の食生活の関わりを理解	✓ 好き嫌いない ✓ よく噛んで食べる ✓ 手洗い、良い姿勢で食べる ✓ 3食規則正しく食べる ✓ 栄養バランスの大切さ ✓ 簡単な献立を立てる ✓ 望ましい食事の仕方や生活習慣を理解する	✓ 衛生的に食事の準備・片付けをする ✓ 食べ物や料理の名前がわかる ✓ 食品の安全・衛生の大切さがわかる ✓ 簡単な調理ができる ✓ 栄養素の種類と働き ✓ 食品の品質を見分け、適切に選択できる	✓ 食事のあいさつ ✓ 食事が多くの人と自然の恩恵に支えられていることを理解 ✓ 資源の有効利用 ✓ 食事にかかわる人や自然に感謝し残さず食べる ✓ 無駄なく調理する ✓ 環境や資源に配慮した食生活を実践	✓ 正しい箸の持ち方、マナー ✓ 協力して食事の準備、片付けをする ✓ 協力したりマナーを考へることが楽しい食事につながる ✓ マナーを考へ気持ちよく会食できる ✓ 食事を通してより良い人間関係を構築するよう工夫できる	✓ 地元の食べ物や行事食を知る ✓ 日常の食事が地域の農林水産業と関連 ✓ 地域の伝統や気候風土と結びついた食文化 ✓ 食料の生産、流通、消費 ✓ 日本の伝統的食文化の歴史 ✓ 諸外国や日本の風土、食文化を理解し、自分の地域とも深く結びついていることがわかる

プログラム 2 ワークショップ

「学校の役割」だと思ふもの、「家庭の役割」だと思ふものを付せんに書き出し、グループで出し合い、教員、保護者、PTAで以下について合意形成しました。

学校の役割

- ・成長段階に応じた**食や栄養に関する指導**する(内容や量など)
- ・**地域人材の有効活用**や調理実習・体験活動の充実させる
- ・食に関する**情報発信**をする

共通する役割

- ・給食は**バランスがよい食事**という**認識を共有**する
- ・「いただきます」「ごちそうさま」などの**マナー**を身につける
- ・食事(給食)を**楽しい時間**にする

家庭の役割

- ・**朝食をしっかりと食べる習慣**をつける(睡眠時間など、生活リズムを整える)
- ・食事を通して家族で**コミュニケーション**をとる
- ・一緒に**食材を買ったり**、食事の**お手伝い**をさせたりする時間をつくる

参加者からの感想

食育という身近なテーマだったのですごく勉強になり、興味がわきました。肥満の脂肪細胞数の話は初めて知りました。今からきちんとカルシウムや野菜をとっておくこと、15歳頃までに決定されることなど、ためになる話ばかりでした。専門の方から教えてもらえると、安心して心にとりが持てそうだと思います。



保護者

保護者の方と話し合ってみると、抱えている課題の違いもわかりました。今回の研修のように、専門家から学ぶ、保護者と意見交換や情報を共有することが本当に大事だと感じました。今年度、学校保健委員会のテーマを「食」にしているので、今回の研修を生かして工夫していきたいです。



教員

一食に少しでも海と山のものを両方入れるように心がけていましたが、今日の講話の中で「赤黄緑」「肉米野菜」と「減塩」のお話があり、参考にしたいと思いました。同時に「十分な睡眠」「個食ではない楽しい食事」を意識しながら思春期の大事な心と身体を守っていきたいと思います。



保護者

部活動地域移行の進め方

～地域移行に向けた

学校と家庭、それぞれの役割～

2024 6.24(月)

14:30-16:30

青森市
教育研修センター
参加者 112 名

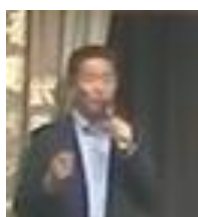
プログラム 1 講話



青森市教育委員会
主任指導主事

福井 正治

青森市の現状として、H25 から R5 の 10 年間で、中学校における部員数は 7,635 人から 5,195 人と 32%減少しています。しかし、中学校 1 校あたりの部活動数に大きな変化がありません。この推移が続くと、中学校の主要な運動部（野球、サッカー、バレー、バスケ等）の部員数は R12 には 10 人程度になり、学校単独で活動を維持することは困難になります。



長岡市教育委員会
学校教育課
部活動地域移行担当課長

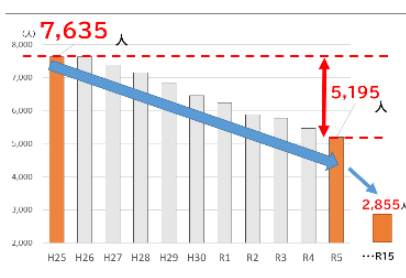
石川 智雄

新潟県では、令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 年間に、休日の部活動の段階的な地域移行が完了するように取組を進め、完了後は原則として休日の部活動は行わないこととしています。長岡市としては、全体構想として、子どもたちの希望を 3 つの層に分け、その希望にあった運営・支援組織・活動を想定しています。

また、長岡市では、『長岡市少年スポーツガイドライン』（R 元年 12 月発表）を作成し、共通の教科書として指導者の資質向上を目指しています。根本的な課題として、「ジュニア期のスポーツの目的の共通理解」が必須です。日本ではスポーツマンを「運動競技の選手、スポーツの得意な人」と訳しますが、欧州では「他人から信頼される人」と訳されます。スポーツをとらえて人を育てる大人の責任も今、問われています。

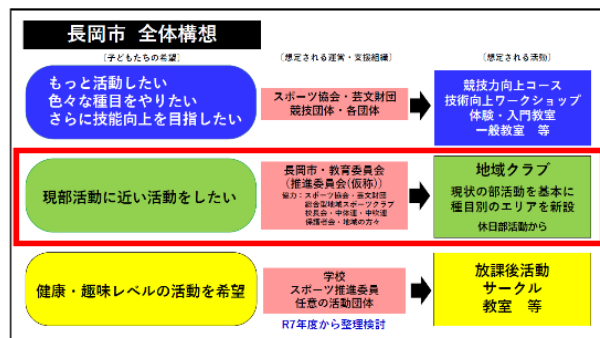
青森県は、R7 までに地域移行に向けた推進計画を作成し、学校とともに受け皿となる団体を検討し、可能な部活動から休日の地域移行に取り組むこととしています。

(4) 青森市の中学校における部活動の部員数



部員数は10年間で、
32%減
(2,440人減)
このまいくと
R15 2,855人
(R5から**45.0%減**)

福井主任指導主事の説明資料から



石川課長の説明資料から

プログラム 2 ワークショップ

部活動地域移行は、小学校は既に済んでおり、中学校はこれからのため、小学校グループ(左)と中学校グループ(右)に分かれ、それぞれのテーマで意見交換しました。

部活動地域移行の意義等を踏まえ、本市小学生の文化・スポーツ活動がより充実するための学校・家庭・地域の役割はどうあるべきか

- ・様々な運動に慣れ親しませる活動機会の設定(学校)
- ・発達段階に応じた練習頻度や練習時間の助言(学校)
- ・学校での様子と部活動での様子における情報共有(学校・家庭)
- ・人としてのマナーや困ったときの相談の仕方の指導(学校・家庭)
- ・指導できる地域人材の確保・発掘(学校・家庭・地域)
- ・生活リズムの確保(食事、睡眠、適度な運動等)(家庭)
- ・保護者会等のネットワーク体制の構築(家庭)

中学校の部活動が地域移行に向けて進められる上で、学校・家庭・地域の役割はどうあるべきか

- ・子どもや教員、地域のニーズを把握(学校)
- ・発達段階に応じた練習頻度や練習時間の助言(学校)
- ・小学校での活動状況、課題等の把握(学校)
- ・指導できる地域人材の確保・発掘(学校・家庭・地域)
- ・指導理念や方向性についての理解(学校・家庭・地域)
- ・生活リズムの確保(食事、睡眠等)(家庭)
- ・保護者会等のネットワーク体制の構築(家庭)

参加者からの感想



自分が部活動をやっていた時代とずいぶん様子が変わった。まだ、自分の子どもは低学年や保育園で部活動の地域移行の実感がわからずにいたが、これからの自分の子供たちが直面する問題として、移行の件だけでなく、いろいろと考えさせられました。



小学校の保護者

地域の文化・スポーツ活動に実際に関わっている保護者の方々と話合いができたことはとても貴重でした。学校から部活動が離れていますが、クラブ活動に通う児童の保護者の思いを理解しながら学校として何ができるのかを考えることが大事だと改めて思いました。



小学校の教員

地域移行がどのように進んでいくのか気になって参加しました。なかなか難しいこともわかりました。長岡市のように、スポーツを本気で取り組みたい子、部活動程度にやりたい子、趣味程度にやりたい子など、子どもの思いに合わせて選べるようになればいいと思いました。



中学校の保護者

学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座⑤

学校統廃合のあり方

～統廃合前後の子どもの変化と
学校と家庭、それぞれの役割～

2024 7.2(火)

14:30-16:30

青森市
教育研修センター
参加者 96 名

プログラム 1 講話



旧栄山小学校
泉川小学校
元 PTA 会長
木立 匡英

「子どもを主体とした学校統廃合～私の実体験～」
栄山小学校が泉川小学校へ統合される計画を突然
新聞記事で知り、栄山小学校 PTA 会長として、これ
から生じるこどもたちの不安、そして地域の不安を
いかに解消していくかを第一に考え、学校と家庭の
連携を密にしながら進めました。

そんな中、栄山小に通う娘が学年の人数が少ないこ
とから生じる不安から、泉川小学校に転校したいと
打ち明けてきます。統廃合の議論真只中での PTA
会長としての立場、そして町会の目もある中、最後
は一人の親として娘に寄り添い、統合前に転校を決
意しました。

H24 栄山小学校は泉川小
学校に統合されました。
今回は泉川小 PTA 会長
として、年間をととして
栄山地区の地域行事に
も隣接小・中学校を巻き
込み、地域の皆さんと一
緒に活動できるように
進めました。

さらには、学区の西中学校3年生の有志約100人による『細越ホテル
の星ボランティア活動』が毎年行われており、今年も6月23日(日)にホ
タルまつりの準備作業として、水路の泥上げ・道路の枝払い草集め・花壇
の整備・旧栄山小学校周辺の清掃を行ってくれました。



青森公立大学
経営経済学部
准教授
西村 吉弘

人口減少社会における学校のあり方～合意形成と居場所づく
りを踏まえて

学校を取り巻く市町村の現状としては、

- ・適正規模を充足している小・中学校は、全体の3割に留まる
- ・学校規模適正化に関して「合意形成」「地域の存続」が課題
(都道府県の傾向と類似している)

今後、学校を中心とした他の公共施設との複合化も視野に入れ
ながら検討することにより、多様な学習環境の創出、公共施設
の有効活用等につながることが期待されています。

(公立小・中学校等の複合化事例は11,450校)

今後の展望としては、以下の視点が大切になります。

- コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の利用
 - 地域学校協働活動による学校と地域の連携・協働の推進
 - 地域住民の「居場所」を改めて検討する
 - ①避難所 ②自己を再認識する場
 - ③公共的生活※に進出するための根拠地
 - サーバント※・リーダーの養成(ボトムアップ型のリーダー像)
 - ①概念化 ②予見性
 - 地域のストレングス(強み)への意識
- 「強み」を生かす発想⇒「できないこと(マイナス面)」の意識
から「できること(プラス面)」を開拓する意識へ
※フォローではなく、サーバントという用語を使用しています。
※公共的生活とは、社会全体とかわる生活を指します。

プログラム 2 ワークショップ

各中学校区のメンバーでグループになり話し合いました。
西村先生にファシリテーターをやっていただきました。

《検討テーマ》

- ①ご自身の所属する地域の「強み(ストレングス)」を挙げてください。
- ②その強みを、どのように生かしていけば、子どもたちの教育支援に繋がると思われますか。

- ・地域の祭がある(意見多数)
- ・地域の力が強い
- ・住民が学校に協力的である(意見多数)
- ・多様な価値観の地域住民がいる
- ・若い世代もいる地域がある

- ・地域行事に対する子どもの参加意識が高い
- ・地元に長く住んでいる人が多い
- ・町会が子どものためにイベントを企画している
- ・保護者がほぼその小・中学校の出身者
- ・PTAと地域が連携している

各グループで挙げられた「地
域の強み」をどのように生か
していけば、こどもたちの教
育支援につながるのか、につ
いては今後の検討課題です。

参加者からの感想



講師の話を聞いて、日頃から学校の強み、地域
の強みに目をやることの大切さを認識しまし
た。少子化における問題はどこも共通する課
題であり、地域力向上には学校単位ではなく、
もっと広域に向き合う問題だと再認識しまし
た。とても有意義な研修でした。

子どもの頃から反対する隣の地域の話を知り
ていたため、統廃合はよくないことなのだ
と心のどこかで思っていました。しかし、話を聞
き、グループで交流して、結果はよいものにで
きるのではないかと思います。子どもたち
の様々なチャレンジを奪わないように学校、
家庭、地域の連携が大切だと思いました。

本学区においては切実な問題である。今後
ますます子どもの数が減り、学校統廃合が
進んでいくと思われるが、家庭や地域の合
意形成が重要であり、新たな学校づくり、
地域づくりにむけて学校運営協議会や地域
学校協働活動を推進していく必要性を再認
識しました。



小学校の保護者



中学校の保護者



中学校の教員



全ては、子どもたちの笑顔のために

青森市PTA連合会 顧問

東青大会実行委員長 高坂 修

教職員の研修会に保護者も参加し、一つのテーマについて共に学び意見を交わすという私の知る限り国内でも例を見ない前衛的な機会を設けてくださり、工藤裕司教育長をはじめとする青森市教育委員会の皆様、青森市小学校長会会長の須藤隆文校長、中学校長会会長の今別幸司校長を含む各校長会の皆様、そしてご参加いただいた全ての教職員並びに保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、今年の9月7日、8日の両日にわたり、第56回日本PTA東北ブロック研究大会東青大会が青森市を中心に開催されます。青森市での東北大会開催は実に21年ぶりのことです。

また、不思議なご縁がありまして、このたびの東北大会の実行委員長をお引き受けすることとなりました。実行委員会では、これまでの内容や構成を徹底的に検討し、参加者が問題意識を持って参加できるよう、現在の教育現場において重要だと考える現実的なテーマを選定しました。当然のことながら、実行委員会が考案した現実的な問題に真正面から取り組むテーマに対しては様々なご意見をいただきました。しかし、私たちPTAが最優先で考えなければならないことは、大人の立場ではなく、子どもたちが夢や志を持てるよう、心身ともに健やかに成長できる環境を整えることに他なりません。

PTAは保護者と教職員を会員とする団体です。コロナ禍もあって両者の間には少し隙間ができているように感じます。この隙間を埋めるためには、お互いの理解、お互いの歩み寄りが必要です。

保護者の皆様、「義務教育」とは保護者に課せられた「子どもに教育を受けさせる義務」なのです。学校に任せておけば大丈夫というのは甘えです。

教職員の皆様、PTAは保護者の団体ではないのです。学校だけですべての課題に対応できるというのは驕りです。



その意味において、今回の研修会は教育先進都市を目指す青森市にあって、正にこれを体現するものです。

この素晴らしい取組が、東青大会が終わった後も長く学校現場に生かされていくことを願っております。そして、ここから得られる気づきや知見を、ぜひ初心に返ってそれぞれの立場から、それぞれの学校環境に生かしていただくことを切に願っております。全ては、子どもたちの笑顔のために。

家庭は教育の原点であり、子どもの健やかな成長と笑顔のために、大人・家庭が果たす役割はとても重要です。



先生方、保護者、PTA、地域住民の皆さんで話し合い、教育活動をサポートし、子どもの健やかな成長と笑顔のために**家庭で大切にしてほしいこと**を7つにまとめました。

子どもの健やかな成長と笑顔を支えるための **7** か条

第1条

子どもの自己決定を尊重し、自己実現を応援しましょう

- ・子どもに「**自分で決めて実行する**」という経験をさせましょう。子どもは成功体験や失敗体験の中から多くのことを学びます。

第2条

子どもとの食事や会話を大切にしましょう

- ・**食事の時間**を大切にし、子どもの話をじっくり聞きましょう。
- ・子どもの様子に変化がないか**アンテナを広げ**、やさしく声をかけることも大切です。

第3条

大人が子どもの手本となって、感謝や思いやりの心を育みましょう

- ・大人の姿を通して、子どもに「**おはようございます**」や「**ありがとうございます**」などの明るい挨拶や、感謝・思いやりの気持ちの表し方を教えましょう。

第4条

子どもに社会のルールや正しい生活習慣を教えましょう

- ・約束を守る、順番を守る、善悪を区別するなど、**基本的なしつけ**はとても大切です。
- ・**十分な睡眠**、**毎日の朝食**、**適度な運動**を習慣化し、子どもの健やかな成長を支えましょう。

第5条

子どもに家族の一員としての役割を持たせましょう

- ・子どもの**年齢に応じた役割**を持たせ、家庭の中で責任感や協力の大切さを学ばせましょう。その中で**家族の絆**が深まります。

第6条

学校と協力し、ともに子どもを育てましょう

- ・いじめや不登校などの子どもの問題は、学校と協力しながら解決していきましょう。
- ・**学校と家庭**、**それぞれの役割**を果たしながら子どもを応援しましょう。

第7条

夢や志をもち挑戦する子どもに育てましょう

- ・**文化**、**スポーツ**、**ボランティア活動**など、多様な人と関わる、人から認められる、人のために行動する、といった体験は子どもの成長にとって、とても大切です。子どもの**夢・志・挑戦**を応援しましょう。



Aomori City Parent-Teacher Association Federation

青森市PTA連合会



夢や志をもち挑戦する児童生徒の育成

青森市教育委員会 青森市小・中学校校長会

令和6年9月作成